

協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

- 3 新年のごあいさつ
- 4 辰年 年男、今年もよろしくお願いします。
- 6 **関東地域づくり協会からのお知らせ**
第36回 道のある風景写真コンクール
- 8 **プロジェクトK49**
安全と事業費縮減の両立を目指した
高速道路事業
中部横断自動車道 長野県区間
- 12 **関東の宿場町18**
日光道中 今市宿 栃木県
- 14 **関東の土木遺産60**
小山樋門 千葉県
- 16 **会員のひろば**
家族の肖像
- 18 **関東地域づくり協会からのお知らせ**
令和5年度 関東地方防災エキスパート支部別講習会を実施しました
地域づくり研究所活動報告
「地域づくり講演会」開催案内
- 19 **会員情報**
新会員紹介・お悔やみ
編集委員会だより
- 20 **ピックアップ 関東の「道の駅」49**
都市と農村のハブに！
八ヶ岳南麓地域の魅力を伝える
道の駅「こぶちさわ」



表紙の言葉

さか い り ひ と

酒井琳仁さん（水戸市立内原小学校5年生）

おめでとう！

この写真は、当協会が主催する第36回「道のある風景写真コンクール」で小学校の部銀賞に選ばれた水戸市立内原小学校の酒井琳仁さんの作品です。

「近所のいつもの散歩道は、春になると桜が満開になるので僕のお気に入りの場所です。去年は弟の入学記念にここで撮影しました。ピカピカのランドセルをせおってはいしゃいである、元気いっぱいな弟らしい瞬間を撮ることができました。頭についた桜もかわいかったです。この賞をいただいて、弟もとても喜んでます」

理事長あいさつ 新年のごあいさつ

(一社) 関東地域づくり協会 理事長
深澤淳志



令和6年の年頭に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

新年早々、石川県能登地方を中心とした大地震により甚大な被害が発生しました。被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い救援・復旧・復興を願っています。

脆弱な日本列島。昨年は関東大震災発生から100年。災害はいつどこで起きてもおかしくありません。国土強靱化への取り組みは急務です。改めて意識させられた新年の幕開けでした。

さて、4年近くにわたり経済・社会生活に甚大な影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが、「5類」に移行し、私たちの社会もようやく活気を取り戻してきました。

猛烈に暑かった昨年の夏。皆さま、体調維持にご苦労されたことと思います。夏の平均気温は、気象庁が統計を取り始めて以降125年間で最高を記録しました。この暑さは熱中症等の健康被害に加え、線状降水帯をはじめとしてこれまで考えられなかったような災害を各地にもたらし、海外では水害に加え大規模な森林火災も発生しました。

ロシアによるウクライナ侵攻は長期化し、エネルギーや資材価格の高騰の一因となり、また、最近の中東情勢や、北朝鮮のミサイル等の打ち上げによる朝鮮半島情勢の緊迫化など国際情勢はかつてないほど緊張が走った昨年でした。

一方、私たちの業務に関係するものとして昨年は大きな動きが2つありました。

1つ目は、6月に改正された「国土強靱化基本法」です。激甚化・頻発化する災害による影響を極力少なくし、より安全・安心な国土を形成するためには、良質の社会基盤の整備が急務です。今後、事業内容と事業規模を定める新たな中期計画が策定されることとなっています。

2つ目は、7月に閣議決定された「国土形成計画」です。本格的な人口減少時代における活力ある地域づくりの基本となるものです。今年の前半には、関東地方整備局等を中心に、地域の課題に即した具体的な計画である「広域地方計画」が策定されます。地域づくりを支えるインフラは、国民生活、経済活動の土台、言い換えれば、国民の方々がその上で安心して思う存分活動してもらえるための「舞台」です。

関東地域づくり協会は、平成25年4月の設立以来、昨年4月で10周年を迎えることができました。厳しい社会情勢の中、皆さま方のご指導をいただきながら、新しい法人としての基礎固めができたこと、心より感謝申し上げます。三段跳

びに例えると、次の10年は、ホップ、ステップ、ジャンプのステップ。ステップを制する者が勝利を制すると聞きました。社会のニーズを的確に捉えつつ、ホップの成果をなめらかに引き継ぎ、思い切り前に跳び出していきたいと考えています。

公益事業は、防災事業、地域活性化事業、環境保全事業、調査研究および技術開発事業、講演会等事業、広報事業の6本を柱として取り組んでいます。防災エキスパートの皆さまには、定期点検や講習会への参加などを通じ、防災技術の研鑽や伝承に取り組んでいただきました。また、会員有志の方を中心に初めて「失敗から学ぶ経験集」を取りまとめました。技術伝承の一助となれば幸いです。

収益事業では、インフラの整備や管理事業の進捗管理や関係機関との調整を行う事業監理業務、公共事業の品質を確保するための第三者品質証明事業などで着実な成果を上げています。

私たち協会のミッションは、関東地方整備局経験者を主体とする会員の皆さまのご支援、ご協力のもと、安心して、いきいきと暮らせる関東地域の基盤づくりのお手伝いを行うことです。社会情勢の流れをしっかりと把握しつつ、新しいことへのチャレンジに積極的に取り組むとともに、業務の一層の効率化や技術の研鑽、人材の確保にも努めてまいりたいと考えています。会員の皆さまの一層のご指導、ご協力をお願いいたします。

年頭に当たり、建設業の新4Kに倣い、試しに私たち協会の目指す4Kを考えてみました。

「関東」、「感動」、「感謝」、「志」です。

関東は、私たちの活動の大舞台です。専門性に胡坐をかかず、常に新しいものに感動し挑戦すること、ともに働く仲間、関係者の方や地域社会に感謝しつつ、さらには、このようなやりがいのある仕事に私たちが携われることへ深く感謝すること、そして、私たちの経験や技術力を活かしながら、この地域をよりよいものにしていくという強い志。「志あるところ、必ず道あり」です。

夏には、平和の祭典パリオリンピック・パラリンピックが開催されます。また、20年ぶりに発行される新紙幣1万円札の顔は「日本資本主義の父」渋沢栄一です。一層の経済回復の象徴となることでしょう。辰年は飛翔の年です。今年一年が平和で、皆さまにとって、明るく笑顔あふれる素晴らしい年となることを祈念し、新年のごあいさつといたします。

令和6(2024)年

辰年

年男、
今年もよろしく
お願いします。

がんと共に生きる

昭和27(1952)年生まれ

古関利夫さん

関東建設マネジメント(株)
元総務部福利厚生官



あけましておめでとうございます。

電車の中で若者から席を譲られることがある。自覚はないが頭髮がほとんど白くなってしまったので、世間ではそれなりの年齢と見られているのでしょう。通りすがりに神社やお寺を見かけると思わずお辞儀をしたりするのも、それなりの年齢が気づかないうちに身に染みついているからかもしれない(笑)。

ところで、平成25年にがんがステージ4という最悪の状態で見つかり、しかも悪性ということですのですぐに手術をした。日本人の半数ががんにかかるという時代だから何も不思議はないが、「なんで俺が!」というのが本音でした。その後、転移が判明し7年ほどホルモン療法を続けたが、今は安定しているということで定期観察をしており、一生のお付き合いと心している。

この手術を機に健康について意識するようになり、筋トレと毎日1万歩を目標にウォーキングをしている(歩数についてはいろいろな意見があるが)。通勤時は大宮駅で下車し、大宮氷川神社の参道を経由してさいたま新都心の職場まで歩く。天高くそびえる2キロほどのケヤキ並木は気持ちを清々しくしてくれるお気に入りのコースだ。

他にも週に2、3日、マンションの仲間とのテニスを続けている。腕前はさっぱり上がらないが、職場とは違ういろんな職業の人と交流できるのがいい。

家庭菜園も健康的である。化成肥料は使わず消毒もしない自然農法にこだわっているのも、出来栄はあまりよくないが採れたてを食べられるので新鮮で、何よりも野菜そのものの味を感じられるのがいい。

ということで、次の辰年に向けこれからも健康を意識しながら、がんと共に生きていきたいと思っている。

人生の目標は 「ポジティブに生きる」

昭和27(1952)年生まれ

仲川博雄さん

元利根川ダム統合管理事務所長



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

毎年1月2日は、わが仲川家の新年会。8人の孫と4家族16人でにぎやかに新年を祝うことが慣例となっており、特に今年は次男の「新居完成」、長男の長女「中学校入学」、長女の長男「小学校入学」と「お祝い尽くめの会」となりそうです。

私は、昭和45年度に江戸川工事事務所調査課に採用となり、先輩からのアドバイスで夜学に通うかたわら、寮の先輩たちと結成したバンド「ルナ・ハワイアンズ」でギターを担当、夜学から帰ってからの夜中の練習の日々。楽しみは年末の寮主催「ダンスパーティー」での演奏。やがて本局、京浜、横国など、他事務所からも声がかかるようになり、ますますのめり込みました。

仕事面では、京浜での鶴見川大規模浚渫事業、荒川上流での朝霞水門、河川計画課総合治水係長時代の首都圏外郭放水路の事業採択など、多くの施設整備に携わることが私の大きな財産、誇りとなっています。

また、自分の人生において最も大きな影響を受けたのが荒川上流の事業計画課長時代で、上司のご指導により「仕事の進め方、人との接し方、人は財産である」などの学びを得ました。これは現在「町内会長」という立場になった、私の意識形成の原点となっています。

これからも、現役時代に培われた経験と知識に加え「ポジティブに生きる」という自分の人生の目標をちょっとプラスして、前向き思考で引き続き「地域への貢献」につなげられればと考えています。

ウィズコロナのもとで世間も動き始めた今年、干支「甲辰(きのえたつ)」にあやかり、皆さまにとって「努力した成果が実を結ぶよい年」となりますようご祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

次の辰年も 元気に迎えられるように

昭和39(1964)年生まれ

工藤美紀男さん

(公財)河川財団
元統括防災調整官

新年あけましておめでとうございます。

秋田県の小さい町から、大東京に就職できるものと思って関東地方建設局を受験したのがついこの間。千葉県野田市にある江戸川工事事務所に採用になり、それから40年間、関東地方整備局にお世話になりました。昨年4月に早期退職し、7月から公益財団法人河川財団にお世話になっております。

令和6年、私は還暦ということになります。執筆依頼を受けたときは、「還暦って何?」と、ピンときませんでした。そうか、60歳=還暦か。あらためて歳をとったなあと感じました。

現在は水戸から東京まで、片道2時間の通勤をしております(単身赴任だろうとよく言われますが、違います)。行きは睡眠、帰りは晩酌と楽しんで(楽しいと思込んで)います。

退職もしましたので健康第一と思い、体を動かすことに時間を使っています。ゴルフは月1回コース、そのための週1回練習場、それ以外の時間は水戸周辺の低い山を登るハイキングなどに行っています。暴飲暴食も控えようと思いい、お酒の量は減らすようにしていますが、新型コロナウイルス感染症による自粛の反動か、回数は増えています。飲んだ後はいつも反省していますが、気が付いたらビールや焼酎を買っています。

次回の辰年を元気に迎えるため、心と体の健康ということで、これからは年齢に合った運動と楽しく程よい飲酒を心がけていきます。

最後に、新しい職場での出会いやOB会などに参加して楽しみたいと思っていますので、皆さま、今後もよろしくお願いします。



60 上々

昭和39(1964)年生まれ

下坪賢一さん

(一社)関東地域づくり協会
元企画部環境調整官



あけましておめでとうございます。

辰年の辰は竜(龍)やタツノオトシゴで表現されます。今年は竜のような勢いのある年になるか、はたまたタツノオトシゴのような穏やかな年になるか。ただただ、中東や東欧の争いが終息することを期待します。

さて、私も60歳に到達します。目や耳が衰え、頭頂部は薄くなって寒さを直に感じる場所ですが、健康で働いていますので、今のところ上々です。

60年を振り返ると、生後20年間は北海道、その後の40年間を関東で過ごしました。昭和59年4月に建設省土木研究所に就職してから、各事務所、本局、本省に勤務し、計画、調査設計、工事発注、道路管理など幅広く経験させていただきました。無事に退職できたのも、ひとえに先輩、同僚、後輩の皆さま、家族のおかげだと心より感謝いたします。

建設省に就職した頃は、残業して仕事をするのが当たり前で、早く帰宅することがはばかれるような雰囲気があったように思います。先輩方は、厳しく後輩に教えることで多くのノウハウを教えようとしていたのでしょう。優しい先輩方に感謝です。一方で、現役職員の方々は働き方改革の中、苦勞していますので、OBとして少しでもサポートしたいと思います。

今年の抱負を幾つか挙げます。ChatGPTに挑戦しAIの弱点を見つけ人間として優越感にひたる。ゴルフでは90台を目指し、一人予約にも挑戦する。野球ではジャイアンツを応援し、竜の如きの勢いで日本一を勝ち取り、美酒に酔う。参拝したことのない出雲大社に足を運び、タツノオトシゴの如く天下泰平と、何事にも優先して協会の安定を祈願する。

最後に、会員の皆さまの御健勝をお祈りしつつ、「したっけねー」。



第36回 道のある風景写真コンクール

私たちの生活に欠くことのできない道。小中高校生を対象とした「道のある風景写真コンクール」も今回で36回目を迎えました。

今回も日常生活での写真、動物とのふれあいの写真、工夫して撮影した写真など、いろいろな一瞬を切り取った「道」のある風景の写真を応募いただき

ました。応募作品数は2,393枚、応募者数は1,527人。写真家の木村恵一先生、加藤雅昭先生、そして関東地方整備局道路部の丸山昌宏道路情報管理官、当協会の後藤敏行専務理事の4名による審査で入賞作品が決定しました。

入賞作品は関東の道の駅、千代田



審査風景

区役所ロビーなどで展示を予定しています。

主催：(一社)関東地域づくり協会／協力：国土交通省関東地方整備局

金賞



小学校の部

「ニコニコな桜道」

浅野さゆり(あさの さゆり)さん
茨城大学教育学部附属小学校6年生



「最高の仲間」

中学校の部

松浦ひなた(まつうら ひなた)さん さいたま市立大砂土中学校3年生

高等学校の部

「春を感じて」

反町天駿(そりまち たかとし)さん
高崎工業高等学校3年生



学校賞

小学校 横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校
中学校 さいたま市立大砂土中学校
高等学校 東京都立工芸高等学校

銀賞

「おめでとう！」

小学校の部

酒井琳仁 (さかい りひと) さん
水戸市立内原小学校5年生



小学校の部

「じいじと夕日に向けて
ジャンプ！」

入岡明日美 (いりおか あすみ) さん
千葉市立若松小学校3年生

「いっしょにおむかえ」

中学校の部

大野瑠奈 (おおの るな) さん
下妻市立東部中学校2年生



「止まらない道」

萩原楓 (はぎはら かえで) さん
駿台甲府中学校2年生

中学校の部

「流動体」

高等学校の部

相馬彩人 (そうま あやと) さん
金井高等学校2年生



高等学校の部



「仲良くおさんぽ」

木村愛良 (きむら あいら) さん
向上高等学校2年生

銅賞

小学校の部

「弟とかかし」

中井紗菜さん
(なかい さな)

さいたま市立三室小学校
5年生

「犬のさんぽと
新市民会館のライトアップ」

大山藍さん
(おおやま あい)

茨城大学教育学部附属小
学校3年生

「花火つくかな？」

中村綜太さん
(なかむら そうた)

茨城大学教育学部附属小
学校4年生

「海をわたる道」

有村琉雅さん
(ありむら りゅうが)

平塚市立大野小学校4年
生

「妹とおさんぽ中に」

山崎実帆子さん
(やまさき みほこ)

群馬大学共同教育学部附
属小学校4年生

中学校の部

「紅葉の中の木漏れ日」

吉田匠さん
(よしだ たくみ)

長野市立東北中学校1年
生

「夏の思い出」

関井遥香さん
(せきい はるか)

さいたま市立大砂土中
学校3年生

「カニの冒険」

田中歩さん
(たなか あゆむ)

世田谷区立駒留中学校1
年生

「明日に向かう架け橋」

柏木優明光さん
(かしわぎ ゆめひ)

瀧野川女子学園中学高等
学校1年生

「90歳親戚のおばあちゃん
日課の散歩道」

野瀬ひなたさん
(のせ ひなた)

さいたま市立大砂土中
学校3年生

高等学校の部

「土手の上の2人は
輝いて見えた」

松高秀哉さん
(まつたか しゅうや)

昭和鉄道高等学校2年生

「母と緑」

大沼のどかさん
(おおぬま のどか)

工芸高等学校2年生

「出番前」

反町維吹さん
(そりまち いぶき)

高崎工業高等学校2年生

「次もまた」

江黒敬人さん
(えくろ けいと)

深谷商業高等学校2年生

「あの先の楽しみへ」

ガラリオ メーさん
(がらりお めー)

鹿沼商工高等学校2年生

安全と事業費縮減の 両立を目指した 高速道路事業

中部横断自動車道 長野県区間



佐久穂IC付近の公園から北を望む。中部横断自動車道佐久臼田トンネルが見え、その向こうには雪をかぶった浅間山が

会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、苦労や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。第49回は、中部横断自動車道長野県区間の事業に携わった、其田誠さん、川崎浩之さん、菱川龍さんと現地を訪ねました。



其田誠さん

世紀東急工業株式会社関東支店部長。昭和48年入省。企画部防災対策技術分析官を最後に平成26年退職。



川崎浩之さん

東亜道路工業株式会社関東支社部長。昭和56年入省。道路部地域道路調整官を最後に平成29年退職。



菱川龍さん

岩田地崎建設株式会社東京支店技術顧問。昭和57年入省。関東道路メンテナンスセンター長を最後に令和5年退職。



① 新直轄方式で施工し、無料区間として中部横断自動車道佐久南IC－佐久小諸JCTが開通したのは平成23年3月。佐久小諸JCTでNEXCO東日本が管理する上信越自動車道に接続（提供：長野国道事務所）

② 佐久小諸JCT付近には産業廃棄物の最終処理場があった。計画のルートは敷地の一部を通過するため、産廃の上に覆いをし、その上に道路を施工することになった

供用まであと2年の時点でも、まだ道路は見えず

中部横断自動車道は長野県から静岡県までを結ぶ約132kmの高速道路である。そのうち長野県内は、これまでに上信越自動車道と接続する佐久小諸JCTから南下して八千穂高原ICまでの22.4kmが開通している。

平成3(1991)年に基本計画が決定したが、まず開通が急がれたのは佐久小諸JCTから佐久南ICまで。上信越自動車道と接続すれば、首都圏へと続く広域高速道路ネットワークにもアクセスできるようになるからだ。地域の人々の主要道であった国道141号は慢性的に渋滞が発生していたこともあり、渋滞解消のためにもこれに並行する高速道路は熱烈に求められていた。

その後の平成15年12月、中部横断自動車道長野県区間は新直轄方式（現 直轄高速）の事業へと計画が変更された。高速道路ではあるが、関東地方整備局が整備し、完成後は無料開放されることになった。

其田誠さんは平成21年4月から平成24年3月まで、長野国道事務所の所長として中部横断自動車道事業に携

わった。菱川龍さんは平成21年4月から平成23年3月まで工務課長として、川崎浩之さんは平成22年4月から平成24年3月まで工事担当副所長として、其田さんとともに同事業を進めた。

其田さんと菱川さんは、着任した平成21年4月当時の進捗状況についてこう振り返る。

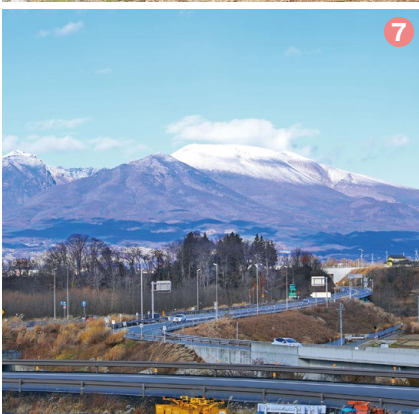
「大型の構造物はできていましたが、平野部の盛土区間と、JCT付近で用地の引渡しが遅れていた部分の工事が未着手でした。平成22年度中の供用は決まっていたものの、まだ道路という道路は見えておらず、本当に2年でできるのかなと不安はありましたね」（其田さん）

「佐久北ICの北側、JCT寄りに会社の駐車場と建物が残っており、移転が終わっていなかったのです。佐久北ICでは国道141号を跨ぐ橋を架けるのですが、用地が更地になるまで半年くらいかかり、なかなか着手できませんでした。あと2年で橋梁の基礎と下部工、上部工を仕上げなければなりませんし、橋台背面の盛土区間も5、6mの高盛土。何万㎡の工事が残っていて、間に合うのかなあと考えたのを覚えています」（菱川さん）

また、佐久小諸JCTのすぐ近くには産業廃棄物の最終



③④ 北陸新幹線との交差部付近。工事費縮減のため、新幹線の高架橋の橋脚間に道路を通すことに。直角に交差させるため、前後のS字カーブと傾斜がきつめになってしまった



⑤ 冬は氷点下になる地域。凍結防止のため、融雪溶液剤自動散布設備が設置されている

⑥ 建設費縮減のため、4車線の計画を完成2車線断面で施工した

⑦ 佐久南ICからは北に雄大な浅間山が望める

処分場があり、中部横断自動車道はその敷地の一部を通ることになっていた。廃棄物の覆土上に道路を造る特殊な構造で、全国的にも例はない。廃棄物に影響のないよう、また水が浸透して流出しないように、特殊なシートをかぶせるなどの工夫が必要とされた。

「構造などは委員会などであらかじめ検討され決まっていますが、やはり実際に現地を見ると細かいところの変更しなければならない点が出てくるもの。最終的な構造検討と施工を進めるために、現場も含め、骨を折ったと思います」(其田さん)

“高速道路”としての管理を最後まで調整

1年後、川崎さんが着任すると供用まで1年足らずとなったが、決めなければならないことは山積みだった。新直轄方式になったことで開通後の管理も長野国道事務所で行うことになったが、関東地方整備局管内での新直轄方式の高速道路開通は佐久小諸JCT～佐久南ICが初めて。自分たちが高速道路を管理することについては未知の分野だった。

「開通後の管理について、事前に決めておく必要がありました。この地域は冬には大雪で高速道路が通行止めになることもあります。そのとき上信越道の管理者(NEXCO)とどう連携するか。有料道路である上信越道の方が早く通行止めになる場合が多く、どのタイミングでこちら(長野国道)に情報提供してもらえるのか。高速道路では除雪はど

う行うのか。そういった細かいことを、供用開始予定の半年以上前からNEXCOや長野県警の高速道路交通警察隊と何度も打ち合わせして調整しました」(川崎さん)

「佐久小諸JCTの料金所以南の中部横断自動車道は無料区間ですが、道路管理自体は有料道路と同程度に行わなければなりません。安全性に問題があってははいけません。各所との連絡の仕方や情報管理用のケーブルを引くなど最後の調整で苦労しましたね」(其田さん)

新直轄方式で事業を行うに当たっては、事業費縮減のため基本計画からの設計変更もあった。用地取得は4車線の予定で進んでいたが、ほとんどの区間は2車線での施工に。もともと高架橋で上部を越える予定だった北陸新幹線との交差部分は、新幹線の橋脚の間をくぐる形で道路を通すことになった。

「そのため、交差部の前後は線路に対し直角に交わるように線形が変更されました。だからここだけちょっとS字が急だし、勾配が急なのです。佐久平は冬場には氷点下になるので、路面の凍結防止のために融雪剤の自動散布設備もつけることになりました」(菱川さん)

なんとか完成にこぎ着け、佐久小諸JCTから佐久南ICまでの延長8.5kmの区間は、平成23年3月26日に供用が決まった。その直前の3月11日に起こったのが、東日本大震災である。幸い道路自体には影響はなかったが、工事関係者だけでなく地権者なども含め700人を招待して行う予定だった開通式典も、各種のイベントも中止に。



8

10 平成23年度は引き続き佐久南ICから八千穂高原ICまでの施工が進められた。「当初設計が沢を埋め立てる計画だった箇所も、現場を見て歩くと湧水があって土工では難しいところが見つかり、設計を橋梁に修正することにしました」と川崎さん



9

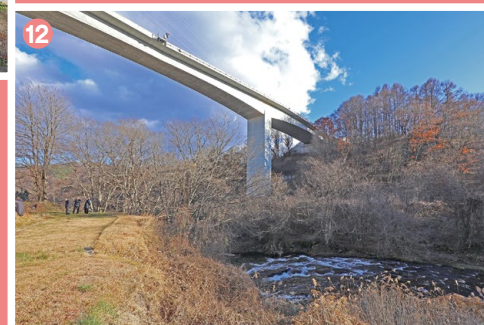
8 9 佐久小諸JCTから佐久南IC間が完成したのは平成23年3月。折悪しく東日本大震災が起き、式典などは全て中止に。佐久南IC付近の管理ステーションで関係者のみの出陣式を行った。最前列に3人の姿がある(其田さん提供)



11

11 佐久穂IC付近の運動公園から中部横断自動車道を望む。このあたりは高低差が大きく、切土高さ20m以上の大断面切土もあった

12 八千穂高原IC付近の大石川橋。清流大石川の水質に影響なくハイピアの高架橋を建設するため気を使った。菱川さんは橋脚部分の施工まで担当



12

「点検のため私が道路を歩いていると、地元の方から『ちょっと私も歩いていい?』と声をかけられましたよ。駄目だと言いましたが、完成を待っていてくださったのだなと思いました」(菱川さん)

開通式ができなかったのは残念だねと3人は振り返る。せめてもと、当日は関係者だけで出陣式を行った。

浅間山の雄大な風景を背に 工事はさらに南へ

佐久南IC以北の開通を急ぎながら、八千穂高原ICまでの区間も少しずつ工事は進んでいた。

佐久南IC以南の区間は、そこまでの田園地帯とは景色が一変し、山岳道路のような様相になる。川崎さんは佐久南まで開通後、次の区間の予定ルート歩いたという。「まだ道になる気配も見えない山の中というところがほとんどでした。佐久小諸JCT～佐久南ICは基本的に盛土で道路を造りましたが、佐久南IC以南は盛土だけでなく、山を大規模に切土したり、橋梁やトンネルなどの構造物で道路を通すことになります。事業費縮減のため、いくつかある沢も盛土で埋めて越える計画になっていましたが、現地を見ると湧水が多くどうしてもその施工では困難なところがありました。無理だから橋梁に設計を変更しようと提案しました」(川崎さん)

「新直轄方式に変更した時点では経費縮減が大きな課題であり、それを念頭に置いて設計されていたため盛土

の指定が多かったのです。しかし、直接担当するわれわれとしては、現地をきちんと確認した上でないと進められません。後々まで安心・安全に利用できるよう道路の機能を確保するためにはやはり橋の方がいいと、戻した部分もありましたね」(其田さん)

上信越道との接続を急いで佐久南IC以北を先に完成させたために生まれた問題もあった。佐久小諸JCT～八千穂高原IC全体では、土配計画のバランスが取れていたが、盛土主体の佐久南IC以北を先行施工したため、山間地の切土主体の佐久南IC以南に本格着手すると、残土が大量に発生することになった。山の中に処分するにしても、自然豊かな土地であるため一箇所に大量というわけにはいかない。そこまで運ぶための工事用道路も必要になる。結局、市町村と協議して、農道を拡幅してルートを造り、何箇所かに分散して土を処理することになった。「もとの計画上では出る土と使う土が釣り合っていたんだけどね」と其田さんは苦笑いする。

長野市内にある事務所から佐久平の現場へは車で約1時間。毎日現場に来るわけではなかったが、以前は今よりも建物も少なく、田園地帯の清々しい空気の中、いつも浅間山がきれいに見えたそうだ。

佐久南ICから八千穂高原ICは平成30年4月に開通。首都圏との交通の便が向上しただけでなく、地域の第3次救急医療機関へのアクセスも格段に良くなった。待ち望まれた高速道路は、その効果を立派に発揮している。

北関東の交通の要衝として 栄えた今市宿



江戸時代、東海道などの街道に設けられたのが宿場です。旅人を迎え送り出した宿場の古今の様子を関東地方の各地に訪ねるシリーズ。第13回は日光道中(日光街道)20番目の宿、今市宿です。



今市宿の追分。左が日光道中、右が日光例幣使街道、中央に追分地蔵尊がある



歌川広重が描いた
日光道中今市
(所蔵:埼玉県立歴史と民俗の博物館)



東照宮を目指す街道が整備される

五街道の一つである日光道中(日光街道)は、江戸の千住から日光東照宮までを結ぶ重要幹線でした。徳川家康が没したのは元和2(1616)年。遺体は遺言により駿河の久能山に葬られましたが、東照大権現を勅許されたことにより翌元和3(1617)年に日光山に改葬されました。そして日光東照宮が造営されたのですが、家康を敬愛する三代将軍家光は寛永11(1634)年から東照宮の大造替を行います。こうして日光東照宮は現代に伝わる姿となり、家康の神格化と徳川幕府の権力の確立が図られたのでした。

以降、日光へは将軍や大名が通うほか、庶民も東照宮参拝を目指すようになりました。このとき使われた街道が日光道中だったのです。全長は約140km。途中には21の宿が設けられていました。もっとも、家康の改葬直後、日光で霊廟建設が始まった当初は、小山からは思川に沿って今市に至る壬生通り(日光西街道)が整備されました。その後、宇都宮の城下町が整えられて街道が整備されると、宇都宮經由日光への道筋が多く利用されるようになりました。このルートが日光道中として認められ、多くの人が利用するようになったのです。壬生通りと日光道中はそれまで下野の寒村だった今村(今市の旧称)付近で合流し、やがて一帯は宿として発展します。今市宿の始まりです。

交通の要衝として栄える

今市宿で日光道中と合流するもう一つの重要な街道があります。中山道の倉賀野から分かれて楡木宿で壬生通りに入り、日光を目指して北上する日光例幣使街道です。その名のとおり朝廷から派遣された例幣使が通行した街道です。正保2(1645)年に東照社を東照宮と改称する宣下を受け、例幣使は翌年から毎年春の祭礼に詣でたのでした。

今市宿では他にも脇街道が集まっています。会津地方との往来に使われた会津西街道、大田原と結ぶ大田原道も合流していました。今市宿は交通の要衝だったのです。今市宿が交通の要衝、重要な宿となった背景には、もちろん日光東照宮への参詣がありました。日光社参をした家光や家綱は今市宿を休憩所としたほか、参詣する大名や旅人たちの宿泊所としても利用されました。宿には本陣、脇本陣のほか旅籠屋21軒があったと記録にあります。

今市宿ではその名が示すように「市」も盛んでした。今市宿付近では宿の開設以前から一と六の日に開く市が行われていました。その市が今市宿に移り定着したのです。その市での取引により米など穀類の相場が立てられ、「今市宿相場」と呼ばれていました。また宿には幕府の米蔵である「今市御蔵所」があり、貯蔵された米は日光山にいる日光奉行支配の役人などへの扶持米となったのです。



遠く日光連山を望む現在の日光道中



道筋のところどころにその昔の趣のある建物が残っている



家光も御殿を建てて滞在した如来寺

今市宿の総氏神である瀧尾神社



二宮尊徳を祭る報徳二宮神社

今市地区名物の水車や歴史的建造物がある杉並木公園



今市宿に関係した意外な人たち

今市宿には意外な人々も関係しています。

豊臣秀吉の朝鮮出兵により断絶した日本と朝鮮の国交を回復しようと、徳川幕府の要請により日本に派遣されたのが朝鮮通信使でした。江戸時代には12回派遣されましたが、うち3回は日光を詣で今市宿に宿泊しています。何百人という多数の使節団だったため、現在の杉並木公園に客館が新造されました。彼らは日光に来た最初の外国人と思われます。

篤農家として知られる二宮尊徳（金次郎）もその一人です。現在の神奈川県小田原市で農民の子として生まれた尊徳は、やがて農業経営の才を認められ、後半生を下野国の再興に尽力します。嘉永6（1853）年からは日光神領の開拓に着手。今市に報徳役所を設置し復興を目指しました。今市の特産品として知られる杉線香は杉の葉を利用して作られますが、これも尊徳が2万6,000本の杉と檜を植えたことにより杉の葉が大量に採れるようになったためです。

明治初期に日本を旅行した、『日本奥地紀行』で知られるイサベラ・バードも今市宿に泊まりました。「今市は二つのりっぱな街道の合するところで、長い坂道になっている町である。山の澄んだ水流が石造の水路に囲われ、町の真ん中を流れていた」と記しています。有名な杉並木と静かな宿。バードにとって今市宿は印象深かったようです。



「逆川」と書かれ、 悪水を流していた坂川

小山樋門こやまひもんは松戸市を流れる坂川に設置された煉瓦造（イギリス積）3連アーチ構造の樋門です。長さ（河川横断方向）は上流側で約7.9m、幅（河川縦断方向）は最大約13m。江戸川から坂川への逆流を防ぐために明治31（1898）年に設置されました。江戸川からの逆流を防ぐための施設は、古くから小山樋門以外にもたくさん建設されました。それほど坂川の逆流は人々を苦しめてきたのです。

もともと現在の坂川中流域は低湿地でしたが、次第に坂川などの川が形成され、江戸時代に入り「主水新田」「七右衛門新田」などの新田開発が活発に行われました。現在のJR松戸駅付近から西の江戸川にかけての下谷地区がその中心です。しかしもともと低湿地だった上に、江戸川の水位が上昇すると坂川の水は江戸川に流れ込みにくくなり、さらには江戸川から坂川に逆流する事態がたびたび発生したのです。田や畑が水浸しになり「3年に一度収穫できればよい」と言われるほどでした。その当時、坂

川は「^{さかがわ}逆川」と書かれ、流れる水は「悪水」（水はけの悪い流れが滞った水）と呼ばれていました。

事態を改善しようと人々は動きます。まず排水のための水門（樋門）を設置しました。河床の浚渫も行いました。しかし十分な効果は得られません。また浅間山の大噴火などにより江戸川の河床が上昇し、下谷では江戸川の水位が坂川より高くなりました。そのため、下谷地区の排水を目的として、坂川を掘継ぎ（掘って伸ばす）、できるだけ下流で江戸川に流れ込むようにしました。坂川掘継ぎは二度にわたって行われました。第1次掘継ぎは文化10（1813）年に一本橋から松戸宿まで。第2次掘継ぎは天保7（1836）年に松戸宿から栗山村（下矢切）まで行われました。これにより坂川本流の流路も定まり、それまで耕作不能の地域でも稲作が可能になりました。

坂川の改修や掘継ぎは資金から労力、資材調達まで、基本的に地域住民によって賄われました。利害が分かれる上流地域と下流地域の対立もあり、工事は困難を極めました。それほどまでしても坂川の逆流を克服し、豊かな田園を築きたいという人々の思いは強かったのです。

往時の姿を今に残す小山樋門

現在は道路橋としての役割を果たしている



逆流時には
板を挟み込み防止した



樋門の傍らにある
選奨土木遺産顕彰碑



関東の土木遺産 第50回

江戸川からの逆流を防ぐ

小山樋門

千葉県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。



それらの土木遺産の中でも特に価値があるとされる選奨土木遺産。第50回は松戸市坂川にある小山樋門です。

レンガ橋、眼鏡橋として親しまれる

江戸時代の改修工事で坂川の逆流は改善されましたが、明治時代に入っても湛水などによる水害は続きます。そして建設されたのが小山樋門でした。設計は千葉県技手の植田藤作。総費用は7,100余円。それまで各地に設置されていた樋門は木造でしたが、小山樋門は地域で生産されていた煉瓦を使って建設されました。煉瓦造の樋門は明治中期から大正にかけて盛んに建設されましたが、小山樋門は千葉県内に残る最古の煉瓦造樋門として歴史的価値が認められており、選奨土木遺産の選定理由ともなっています。

小山樋門に続いて江戸川との合流地点に建設されたのが、より大規模な煉瓦造4連アーチの柳原水閘（本連載第27回）です。こちらの設計は井上二郎で、明治37(1904)年に完成。柳原水閘も選奨土木遺産に選定されています。そして坂川の逆流対策として決定的だったのが、明治42(1909)年に設置され、当時東洋一とまで言われた樋野口排水機場でした。その効果は大きく、翌明治43(1910)

年に起きた大洪水では坂川流域の水害を防ぎました。

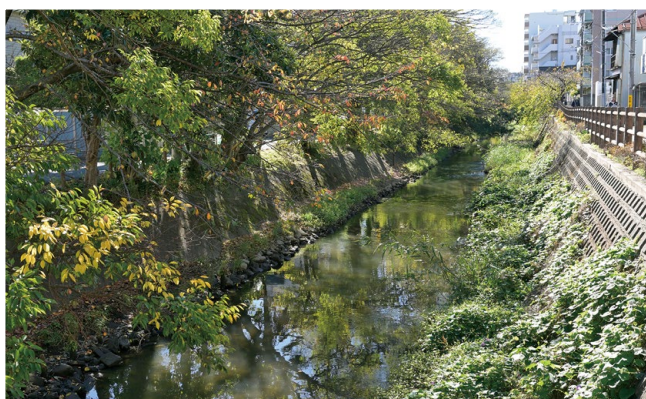
その後、新坂川や坂川放水路の開削、松戸排水機場の設置などにより坂川の逆流、水害はようやく治まったのです。

水害のなくなった坂川ですが、近年になって新たな問題が発生しました。水質の汚濁です。昭和時代の高度経済成長期に顕著になりました。一時期の坂川は悪臭やアブク、ゴミなどが大量に漂っていました。これではいけないとして、住民と国・県・市が一体となって平成6(1994)年に「清流ルネッサンス21江戸川・坂川地域協議会」を設置。坂川や江戸川の水質改善を目指す活動を始めました。地域住民の取り組みとしてはゴミ拾いや下水を川に流さないことなど。行政としては古ヶ崎浄化施設などの浄化施設や北千葉導水路の建設や下水道事業の整備などが推進されました。その結果、坂川や江戸川の水質は劇的に改善されたのです。

かつての清流を取り戻した坂川。鳥が飛び魚が泳ぐその姿を、「レンガ橋」「眼鏡橋」と呼ばれ親しまれている小山樋門はじっと見守っています。



小山樋門は柳原水閘（右上）と共に江戸川からの逆流を防いだ



その昔の清流を取り戻した坂川



このページは
会員の皆さまの
投稿によるページです

絵を描き始めたきっかけ

小学校1年生の時、母親が私の夏休みの宿題である絵日記の表紙を描いてくれました。それは近くの川で私が捕まえた「アメリカザリガニ」の絵。その絵は実にリアルで、母親の才能に驚かされました。そしてその一枚の絵が私に絵心を与えてくれたのです。それからは母親の技量に追いつきたい一心で、毎日のように絵を描いていました。後から聞いた話では、母方の祖父も描画が達者で、子供の頃から「絵巻物」を描いていたとのこと。そして私の娘も息子にも絵心があり、血のつながりを感じています。



「柏尾川逍遥」
地元の展覧会で知事賞（一等賞）を頂いた絵です

継続は力となり、小学校4年生の時には地区の小学校合同図画コンクールで一等賞を取りました。そして小学校5年生の時に私の担任となった図画の先生と運命的に出会い、さらに絵の深みにはまっていきました。

ここ数年は地元の美術協会では活動しながら、埼玉県美術展覧会などに出品し、多くの方に自分の絵を見ていただいています。

日本最大規模の「日展」「二科展」に出品することが私の夢です。

水彩画について

私が得意としているのは水彩画と鉛筆画。水彩画は「リキテックス」というアクリル絵の具を愛用しています。紙は「ワグマン」という、タワシでこすっても表面が傷まない^{きょうじん}強靱な紙です。アクリル絵具は乾くと水に溶けなくなる性質があり、着彩した上から何度別の色を塗り重ねても先に描いた色が滲むことはありません。例えば、昔のアニメ動画のように「セル画」を何枚も重ねて一枚の絵を完成させるようなイメージです。今で言う「レイヤー」ですね。

私は人物画ばかり好んで描いていますが、水彩画のモデルは、主に家族と友人です。人物画は、作者とモデルの心のつながりがないと、ただの人体描写になってしまうので、心が通い合う関係が必要なのです。そのためモデル

家族の肖像



小林 薫

関東建設マネジメント株式会社
元荒川上流河川事務所副所長



「天使の沐浴」
私が一番気に入っている絵です。
幼い頃の娘を描きました

は家族が中心となっています。

鉛筆画について

これほどお金をかけずに楽しめる趣味は、鉛筆画の他にないと思います。何しろ鉛筆と紙があれば何時間でも楽しめるのですから。

鉛筆画も奥が深く、紙の種類によって描き味がかなり異なります。高価な紙でも安価な紙でも絵を描く楽しみの度合いは変わりませんが、やはり高価な紙の方が描きやすいですね。

私が最近愛用しているのは「オリオンバロンセント」紙です。その紙質は限りなく強靱で、かつ、紙面はきめ細かく高平滑に仕上げられています。一番素晴らしいところは、鉛筆を紙にアタックさせたときの最初の筆跡が「濃く」描かれないこと。複数の斜線を重ねることで描画対象物の陰影を表現していくのが鉛筆画の基本ですが、斜線を一定の力で最初から最後まで描くことは難しく、一般の画用紙だとどうしても斜線の描き始めの一点が色濃く出てしまいます。それがこのオリオンバロンセントにはあまり生じないのです。

使用している鉛筆はH～4Bまでのシャープペンシルと、8B～12Bの黒鉛鉛筆です。鉛筆の全てが「芯」できている「フルグラファイト鉛筆」というものもあって、広範囲の塗りつぶし描写に長けています。

完成した鉛筆画は写真撮影し、

「Photoshop」というソフトに取り込みます。そしてAIにより着色します。同ソフトの「ニューラルフィルター」という描画機能は、モノクロの写真や絵に自動的に色を付けてくれる優れたものです。

絵が自分の生きがい

私は休日で仕事の無い日には、午前1時頃に起きて絵を描き始め、午後5時頃まで描き続けることが多々あります。食事の時間と愛犬の散歩の時間を差し引いても、15時間くらい絶え間なく描いているのです。午後5時に作業を終えるのは、休日の夕食は私が作ると自分で決めているためです。味についての家族からの評判もまずまずです。

子育ても一段落し、今は趣味に費やすことができる時間が増えました。仕事のストレスや良好な人間関係を持続する難しさは、職業人にとっての共通事項。絵を描くもう一つの魅力は「何も考えずに没頭できる時間」が持てるという点です。無心になることって素晴らしいですよ。



Photoshopというソフトを使って、左の鉛筆画を右の彩色画に加工しました



机をいっぱいを使って、こんな感じで絵を描いています



「学校の中の小さなお店屋さん」
初めて入賞した絵です（草加市美術展）

令和5年度

関東地方防災エキスパート支部別講習会を実施しました

平成21年4月28日付で当協会(当時：関東建設弘済会)と国土交通省関東地方整備局との間で締結した「関東地方防災エキスパート」制度に関する協定に基づき、防災エキスパート活動の円滑化を目的として、支部別に講習会を実施しています。

今年度も関東地方整備局および関係事務所の協力により、11月20日(月)の甲府支部講習会を皮切りに12月15日(金)の高崎支部講習会まで、全ての支部で無事に講習会を実施することができました。

講習会には全支部で265名の防災エキスパートに加え

四支部合同講習会の様子



て関東地方整備局・事務所職員の方々約90名、事務局も含め約400名が参加しました。各支部の講習会では午前中の講習の後、午後から現地見学や講演が行われました。

令和5年度 関東地方防災エキスパート支部別講習会実施状況

支部名	参加者	実施日	講習会場	関東地方整備局講師	現地視察・講演等
水戸支部	32名	11月27日(月)	土浦市亀城プラザ	青木孝夫氏(防災室長)	現場見学：首都圏中央連絡自動車道神崎PA整備現場
宇都宮支部	20名	11月29日(水)	栃木県教育会館	井上啓氏(防災対策技術分析官)	
高崎支部	33名	12月15日(金)	ビエント高崎	宮永悠平氏(防災情報調整官)	現場見学：ハッ場ダム
大宮支部	56名	12月 7日(木)	東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」	小池聖彦氏(総括防災調整官)	講演：川瀧弘之氏(元東北地方整備局長) 「減災・強靱化について考える ～東日本大震災を教訓として～」 事例発表：令和5年度スキルアップセミナー関東 ～防災・維持管理にかかる部門受賞課題4課題～
千葉支部	50名				
東京支部	13名				
神奈川支部	24名				
四支部 合同計	143名				
甲府支部	19名	11月20日(月)	ベルクラシック甲府	井上啓氏(防災対策技術分析官)	現場見学：R4国道20号新笹子トンネルその1工事
長野支部	18名	12月 4日(月)	JA長野県ビル	高橋哲氏(災害対策マネジメント室長)	講演：馬場浩司氏(長野県危機管理防災課長補佐) 「令和元年東日本台風災害の概要と災害対策」 太田英雄氏(長野県 防災指導員) 「地域の防災力アップに関する取り組み」
合 計	265名				

地域づくり研究所活動報告

平成26年9月から活動を始めた「地域づくり研究所」。現在委嘱を受けた7名の客員研究員が、地域の人々を対象とした防災や社会資本に関する啓発活動、地域の防災ネットワーク構築支援、防災体験学習施設に来館する子供たちを対象とした防災講座等の活動を行っています。

今年度は、有明の東京臨海広域防災公園内にある防災体験学習施設「そなエリア東京」へ来館する小中学生を対象にした防災講座を中心に活動しています。

小中学生対象の防災講座活動のほかにも、関東地方防災エキスパート四支部合同講習会において客員研究員が東日本大震災を教訓とした「減災・強靱化を考える」と題した講演を行いました。



そなエリア東京セミナールームで小学生に地震防災について講義する尾澤氏



防災エキスパート四支部合同講習会で講演する川瀧氏

地域づくり研究所の主な活動(9月以降)

(1) そなエリア東京「防災講座」		
10月26日(木)	尾澤卓思氏	(東京都小金井市立本町小学校 5年生)
10月31日(火)	尾澤卓思氏	(東京都大田区立東六郷小学校 4年生)
11月 1日(水)	尾澤卓思氏	(静岡県富士宮市立上野小学校 6年生)
11月 7日(火)	中島威夫氏	(東京都新宿区立富久小学校 4年生)
(2) 関東地方防災エキスパート四支部合同講習会		
12月 7日(木)	川瀧弘之氏	減災・強靱化について考える

「地域づくり講演会」開催案内

来る3月1日(金)に「活力・魅力あふれる地域づくり」をテーマに、國學院大學の楓千里教授と宇都宮ライトレール株式会社の中尾正俊常務取締役を講師にお招きして、北区赤羽会館で開催予定です。皆さまのご参加をお待ちしております。

参加を希望される方は、①～④をメールまたはFAXでお申し込みください。

- ①氏名(ふりがな) ②所属(企業名等)
③連絡先(電話番号) ④CPD希望の有無

【申込先】 E-mail: bousai@kan-koueki.net
FAX: 048-600-4175

詳しくは当協会HPをご覧ください。

<https://www.kt-chkd.or.jp/>



宇都宮ライトレール株式会社
常務取締役 中尾正俊氏



國學院大學教授
楓千里氏

- 日時: 令和6年3月1日(金) 13:30 - 16:15
- 会場: 赤羽会館
(東京都北区赤羽南 1-13-1 / JR赤羽駅から徒歩5分)
- プログラム
 - ・講演Ⅰ「LRTが地域の発展を導く」中尾正俊氏(宇都宮ライトレール株式会社常務取締役)
 - ・講演Ⅱ「観光まちづくり」楓千里氏(國學院大學教授)

会 員 情 報

令和5年11月1日～
50音順・敬称略

新会員をご紹介します 新しく12名の方が入会されました。これからよろしくお願いいたします。

氏名	現勤務先
有野 充朗	中央復建コンサルタンツ(株)
安藤 勇	
大澤 一弘	(一社)日本建設機械施工協会
太田 浩徳	新建設コンサルタント(株)
大塚 幸男	関東建設マネジメント(株)
河村 賢二	中央開発(株)

氏名	現勤務先
川村 俊一	(株)建設技術研究所
菊地 春海	(株)横河ブリッジ
木村 邦久	(株)日建技術コンサルタント
高橋 敏彦	(一財)経済調査会
村山 一弥	東京海上日動火災保険(株)
吉崎 収	(株)大林組

お悔やみ申し上げます 謹んで哀悼の意を表します。

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
小田倉信一	令和4年7月	常陸 河川管理課長
三浦 輝夫	令和5年9月	河川部 水政課長補佐
角田 久	令和5年9月	荒川上流 建設専門官
高橋 正秋	令和5年10月	建設大学校 総務課長

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
福田 義一	令和5年10月	千葉 副所長
清水 昭邦	令和5年11月	関東地建 企画部長
酒井 守久	令和5年12月	大宮 副所長
田口 正治	令和5年12月	渡良瀬 管理課長

編集委員会だより

あけましておめでとございます。わが家の年始の恒例といえば「箱根駅伝」のTV観戦。駅伝に触発されランニングをする人もよく目にしますが、私の場合には走るまでには至らず、目指すはウォーキングです。歩くことは健康寿命を延ばすことに有効といわれていますが、正しい歩き方が大切なのだそうです。最近はいわゆる「老人歩き」をする若者も増えているとのこと。正しい歩き方で適度な運動を心がけましょう。

新型コロナウイルス感染症による行動制限も撤廃され、繁華街にもぎわいを取り戻しています。お酒好きにとつては、年を重ねても飲めることはとても楽しいものです。一人で飲むよりも、皆とコミュニケーションをとりながらお酒を嗜むとその楽しさは倍増です。まさに、お酒が健康寿命を延ばす「百薬の長」になります。ただし、適量を味わいながらゆつくり飲むこと、休肝日をつくるのが肝要とのこと。

今年辰年。「登竜門」のことわざにあるように、鯉が竜になるよう、大いに飛躍する年にいたしましょう。本年が会員の皆さまとご家族にとり、より佳き年となりますことをお祈りいたします。

(編集委員 S・A)

編集委員

● [関東地域づくり協会]

有馬正吾
大柴公彦
辰野剛志
前田隆徳
丸山貴志
山下眞治

[会員]

浅古勝久((株)熊谷組)
望月美知秋((株)日水コン)

ピックアップ

第27回

関東の道の駅

都市と農村のハブに！ 八ヶ岳南麓地域の 魅力を伝える



道の駅
「こぶちさわ」



清々しい山の空気の中に位置する道の駅「こぶちさわ」。小淵沢ICから車で約3分

道の駅「こぶちさわ」は観光の目的地としてだけでなく、敷地内にはサテライトオフィスも。二拠点生活や移住なども含めさまざまな関わり方をしてくれる「関係人口」を増やすため、地域の魅力発信を続けています。

八ヶ岳南麓の農産物にこだわり、魅力発信

道の駅「こぶちさわ」は、敷地内に観光案内所や直売所、レストラン、体験施設、温浴施設にホテルも備える目的地型の道の駅です。中でも力を入れているのは、直売所。

「約30年前の開業当初からの目的の一つが、地域の女性たちが自ら作った野菜などを利用した食事を提供し、健康で自立した生活を送るための拠点をつくるということだったのです。並べているのはこの八ヶ岳南麓地域でその季節に採れるものだけ。今ここにしかない、旬のおいしさを知ってほしいからです」と直売所の林大介店長は語ります。追求しているのは安さではなく、おいしさ。冬には厳しい寒さになる地域のため、地元農家にはさまざまな加工品を製造してもらえるようお願いしているそうで、直売所でも加工業者と連携して、農家の方に新しい提案をしたり希望に合う工場を紹介したりしています。

もともと地元の女性たちの自立を支援する意味もあってできた道の駅。現在も、道の駅ではそば処やレストランなどの運営、ジャムなどの加工品など地元の女性たちの力なくしては語れません。コロナ禍を経て移住者も増えていますが、若い人たちはなかなか地域に溶け込めないことも。交流のきっかけづくりの一つとして、地元の女性たちによる料理教室も開催しています。

リニューアルで若い利用者が急増中

直売所は令和元年のリニューアルで売り場面積が1.5倍に。子供が並んだ野菜を覗き込めるよう、陳列棚は通常より30cmほど低くし、通路はベビーカーがすれ違える広さに。30～40代の子育て世代にも利用しやすくなりました。

リニューアルに合わせて、東京で評判のイタリアンレストランも誘致。会食などにも利用できるため、利用者がぐっと増えるきっかけにもなったそう。

「これもオーナーシェフが私共のコンセプトやビジョンに共感してくださったからこそ。提供されるメニューには直売所の野菜を使ってもらっています。シェフの方々にはあえて制服姿で買い物してくださいとお願いしているんですよ。直売所のお客さまに、この野菜が隣の本格イタリアンで食べられるんだと知って頂けますから。シェフが買い物をしている場面に遭遇したらチャンス！ ぜひお声がけください。料理方法や野菜の特性など、気さくにアドバイスしてもらえます。レストランで食事した方にも、おいしかったから隣で買ってみよう、こんなふうに料理してみようと思ってもらえたらうれしいですね」(林店長)

八ヶ岳南麓地域の豊かな自然を最大の資源に、日々アイデアを出し続けています。

女性たちによる料理教室も開催



地元の女性たちが作る巻き寿司。週末だけ販売され、あっという間に売り切れる

「ふとしたときに思い出して足を運んでもらえるよう、魅力を伝えるハブになりたい」と話す林大介店長



直売所内にあるジャム工房。ジャムやトマトソースなど、加工品にも力を入れる

直売所内にあるそば処で毎日そばを打つ地元の女性たち。そば打ち体験も実施

子供連れでも買い物しやすいよう工夫を凝らした直売所。広々とした開放的な店内に所狭しと農産物や加工品が並んでいる



(左) 立派なきのこも人気！
(右) そばをはじめ加工品も充実